## 東京都鳥類繁殖分布調査 2016－2021



東京都鳥類繁殖分布調査は，これまでに，東京都により1973－1978 年および 1993－1997 年に行なわれてき た調査の 3 回目の調査として実施したものです。今回 2016－2021年に実施した調査は，体制が変わり，東京都 の調査ではなく，全国鳥類繫殖分布調査と連携したボランティア調査として実施しました。さらに，第1回目の調査から現地調査が実施されている本土部の 279 メッシュだけでなく，島嶼部でも調査を実施し，本土部もで きるだけ面的な現地調査情報の収集を目指しました。その結果，あらたに 1，165 メッシュで現地調査を実施す ることができました。

これらの現地調査情報にアンケート情報を加え，東京で繁殖記録のある（あるいは可能性のある） 143 種に ついて分布図を作成しました。また，1970 年代からの鳥の増減についても明らかにすることができました。この成果は，すでに東京都のレッドリストの改定に役立てられていますし，今後，保護区の選定など，鳥類に関する自然環境保全施策に役立てられ，さらに解析を進め，学術研究にも貢献していけるものです。

今回の調査は，多くの団体，個人の協力なしに実施することはできませんでした。現地調査に参加いただい た皆様，観察情報を提供いただいた皆様，調査の実施に協力いただいた調査協力団体の皆様へ，ここに厚く御礼申し上げます。

2021年12月 東京都鳥類繁殖分布調査会 調査事務局

## 要約

2017 年から2021年に237 人の調査参加者の協力のもと，東京都の本土および有人島全域で調査を行な つた。1970 年代（1973－1978 年）および 1990 年代（1993－1997 年）にも現地調査が行なわれている 279 メッシ ユを含む，1，444 メッシュでは現地調査を地点の調査を実施した。また，2016年から2021年にかけての43，653件のアンケート情報が得られた。その結果，東京で繁殖記録のある（あるいは可能性のある） 143 種について分布図を作成し，とりまとめを行なった。

1970 年代から現地調査が行なわれているメッシュについて比較すると，樹林性の鳥や魚食性の鳥に増加傾向にある種が多く，草地／湿地性，裸地性の種に減少傾向にあるものが多かった。これは全国の傾向とよく似ていたが，森林性の鳥に，1990 年代に一度減ってV字回復した種が多い点が大きな違いだった。東京は，首都圏だけに森林面積も小さく，開発圧も高い場所が多く，また公園緑地が多く整備されていてそこに植栽さ れた樹木が大きく成長している。こうした東京の特性が V 字回復の樹林性の鳥が多いことにつながったのでは ないかと思われた。また，平地部で鳥類相の大きな変化が起きていて，これも，草地／湿地性，裸地性の種の減少と樹林性の鳥の回復が影響していた。

| 目次 |  | タマシギ | 53 | ウグイス | 104 |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | ツバメチドリ | 54 | ヤブサメ | 105 |
| 要約 | 2 | ウミネコ | 55 | エナガ | 106 |
| 調査の概要 | 5 | コアジサシ | 56 | メボソムシクイ | 107 |
| 調査の体制 | 5 | アジサシ | 57 | エゾムシクイ | 108 |
| 調査の方法 | 5 | カンムリウミスズメ | 58 | センダイムシクイ | 109 |
| 調査結果 | 9 | ミサゴ | 59 | イイジマムシクイ | 110 |
| 分布図 | 9 | ハチクマ | 60 | メグロ | 111 |
| 分布図のみかた | 9 | トビ | 61 | メジロ | 112 |
| ウズラ | 11 | チュウヒ | 62 | ウチヤマセンニュウ | 113 |
| ヤマドリ | 12 | ツミ | 63 | オオヨシキリ | 114 |
| キジ | 13 | ハイタカ | 64 | コヨシキリ | 115 |
| オシドリ | 14 | オオタカ | 65 | セッカ | 116 |
| オカヨシガモ | 15 | サシバ | 66 | ゴジュウカラ | 117 |
| マガモ | 16 | ノスリ | 67 | キバシリ | 118 |
| カルガモ | 17 | クマタカ | 68 | ミソサザイ | 119 |
| カイツブリ | 18 | オオコノハズク | 69 | ムクドリ | 120 |
| カラスバト | 19 | コノハズク | 70 | コムクドリ | 121 |
| キジバト | 20 | フクロウ | 71 | カワガラス | 122 |
| アオバト | 21 | アオバズク | 72 | マミジロ | 123 |
| クロアシアホウドリ | 22 | アカショウビン | 73 | トラツグミ | 124 |
| オオミズナギドリ | 23 | カワセミ | 74 | クロツグミ | 125 |
| オーストンウミツバメ | 24 | ヤマセミ | 75 | アカハラ | 126 |
| カツオドリ | 25 | ブッポウソウ | 76 | アカコッコ | 127 |
| カワウ | 26 | コゲラ | 77 | コマドリ | 128 |
| ウミウ | 27 | オオアカゲラ | 78 | コルリ | 129 |
| ヨシゴイ | 28 | アカゲラ | 79 | ルリビタキ | 130 |
| ミゾゴイ | 29 | アオゲラ | 80 | イソヒヨドリ | 131 |
| ゴイサギ | 30 | ハヤブサ | 81 | サメビタキ | 132 |
| ササゴイ | 31 | チョウゲンボウ | 82 | コサメビタキ | 133 |
| アオサギ | 31 32 | サンショウクイ | 83 | キビタキ | 134 |
| ダイサギ | 33 | リュウキュウサンショウクイ | 84 | オオルリ | 135 |
| コサギ | 34 | サンコウチョウ | 85 | スズメ | 136 |
| クロサギ | 35 | チゴモズ | 86 | キセキレイ | 137 |
| クイナ | 36 | モズ | 87 | ハクセキレイ | 138 |
| ヒクイナ | 37 | アカモズ | 88 | セグロセキレイ | 139 |
| バン | 38 | カケス | 89 | ビンズイ | 140 |
| オオバン | 39 | オナガ | 90 | カワラヒワ | 141 |
| ジュウイチ | 40 | ホシガラス | 91 | オガサワラカワラヒワ | 142 |
| ホトトギス | 41 | ハシボソガラス | 92 | ウソ | 143 |
| ツツドリ | 42 | ハシブトガラス | 93 | コイカル | 144 |
| カッコウ | 43 | キクイタダキ | 94 | イカル | 145 |
| ヨタカ | 44 | コガラ | 95 | ホオジロ | 146 |
| アマツバメ | 45 | ヤマガラ | 96 | クロジ | 147 |
| ヒメアマツバメ | 46 | ヒガラ | 97 | コジュケイ | 148 |
| イカルチドリ | 47 | シジュウカラ | 98 | コブハクチョウ | 149 |
| コチドリ | 48 | ヒバリ | 99 | カワラバト（ドバト） | 150 |
| シロチドリ | 49 | ツバメ | 100 | ホンセイインコ | 151 |
| ヤマシギ | 50 | コシアカツバメ | 101 | ガビチョウ | 152 |
| セイタカシギ | 51 | イワツバメ | 102 | カオグロガビチョウ | 153 |
| イソシギ | 52 | ヒヨドリ | 103 | ソウシチョウ | 154 |

ベニスズメ ..... 155
各種鳥類の密度分布 ..... 156
東京の鳥の現状 ..... 165
増減種とその共通点 ..... 167
1990 年代からの増減 ..... 167
分布変化の特徴 ..... 168
鳥類相の変化 ..... 169
特徴的な変化を示した種 ..... 171
分布の変化 ..... 171
個体数の変化 ..... 173
レッドリストへの反映 ..... 174
成果とデータ利用 ..... 175
調査協力者 ..... 176

## 調査の概要

東京都の鳥類の繁殖状況及び分布変化を明らかにする「東京都鳥類繁殖分布調査」は，これまでに東京都の調查として 1973－1978 年（以下 1970 年代調査とする）および 1993－1997 年（以下 1990 年代調査とする）に行なわれている。今回の「東京都鳥類㢣殖分布調査」は，NGO が中心となって行なわれ た「全国鳥類繫殖分布調査」と連携して，2016年から2021年に調查が行なわれた。

## 1．調査の体制

東京都で野鳥観察者のネットワークを持つ調査協力団体 12 団体が参加して実施した。調査事務局 はバードリサーチと日本野鳥の会が務めた。

調査事務局 バードリサーチ・日本野鳥の会

## 調查協力団体

いたばし野鳥クラブ，東京環境工科専門学校，NPO東京生物多様性センター，都市鳥研究会，新島村博物館，日本野鳥の会奥多摩支部，日本野鳥の会東京，NPO法人ネイチャーリーダー江東，八王子日野カワセミ会，八丈ビジターセンター，府中野鳥クラブ，NPO法人リトルターン・プロジェクト

鳥類繁殖分布調査会（全国鳥類繁殖分布調查）
バードリサーチ（事務局），日本野鳥の会，日本自然保護協会，日本鳥類標識協会，山階鳥類研究所，環境省生物多様性センター

助成 自然保護助成基金（2016－17年）

## 2．調査の方法

本調查では，2017年から2021年にかけて現地調查を実施し，2016年から2021年の情報をアンケー ト調查（文献や観察記録など）として収集した。

## （1）現地調査

現地調査は，東京都各地の 1,444 メッシュで実施した（図 1）。1970年代調査および 1990 年代調査で は，279 メッシュで現地調査が行なわれていたが，今回はそれに加えて，1，165 メッシュで新たに現地調査を実施した。各メッシュには，そのメッシュを代表する環境を含むように約 1 km の調査コースが設定さ れており，そこを繁殖期に 2 回，時速 2 km 程度で歩きながら，調査者から 50 m 以内，それ以遠に分けて，種名と個体数を記録した。調査はまた，「観察事項の判定基準」（表 1）をもちいて，観察コードを記入し た。これらのデータは，識別や記入の誤りを点検•問合せ・修正したのちにデータベースに登録した。2回以上の調査を実施した場合は，3回目以降の情報はアンケート情報として使用した。

なお，1970 年代から現地調查が実施されているメッシュでは基本的に，同じ調查コースで実施したが， 1990 年代の調査からも 20 年程度経過しており，宅地開発や道が使用されなくなったことなどにより，コ ースが消失している場合があった。調査コースを変更せざるを得なかった場合は，変更後のコースを記録した。


図 1 現地調査の実施状況とアンケート情報の収集状況

| ランク 観察コード成鳥について |  | 観察事項 |
| :---: | :---: | :---: |
|  |  |  |
| A | 10 | 成鳥が巣あるいは巣のあるらしい所にくり返し出入りしている |
| A | 11 | 成鳥が抱卵又は抱雛している。あるいはしているようだ |
| A | 12 | 成鳥が巣のあるらしい所にとびこむと同時にヒナの餌をねだる声がきかれた |
| A | 13 | 成鳥がヒナのフンを運搬している |
| A | 14 | 成鳥が巣のヒナに餌を運搬している（餌をくわえたまま観察者を警戒し移動する気配のない場合を含む） |
| A | 15 | 擬傷をみた |
| B | 30 | その種が営巣し得る環境で繁殖期に，その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし，その鳥が冬鳥，旅鳥かもしれない時は除く |
| B | 31 | 求愛行動をみた。ただし，その鳥が冬鳥，旅鳥かもしれない時は除く |
| B | 32 | 交尾行動をみた。ただし，その鳥が冬鳥，旅鳥かもしれない時は除く |
| B | 33 | 威嚇行動，警戒行動により，付近に巣又はヒナの存在が考えられる |
| B | 34 | 巣があると思われる所に成鳥が訪れた。ただし，そこが時（ねぐら）である場合は除く |
| B | 35 | 造単行動（巣穴堀りを含む）を見た |
| B | 36 | 成鳥が巣材を運搬している。ただし，明らかに周囲に巣を構えていると思われる場合に限る |
| B | 37 | 成鳥がヒナへの餌を運搬しているが，巣が周囲にあるかどうかわからない |
| C | 50 | その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが，他には繁殖の兆候が認められな い。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの |
| C | 51 | 繁殖期に鳴き声を確認したが，さえずりかどうかわからない |
| D | 60 | その種の生息を確認したが，その周囲にその種が営巣し得る環境はないと思われる。例）ア マツバメ類，ワシタカ類の上空通過を確認したが，その周囲には営巣可能な環境はないと考 えられる場合 |
| D | 61 | 冬鳥または旅鳥で，繁殖期に生息がみられたが，過去にその地方で繁殖の記録がないもの |
| 巣について |  |  |
| A | 16 | 単立ち後の単がある。ただし2016 年以降に使用された巣であること |
| A | 17 | 卵のある巣をみた |
| A | 18 | 成鳥がおちついてすわっている巣の近くで，その種が営巣し得る環境でその種の卵殻がみつ かった |
| B | 38 | 巣を発見したが，卵，ヒナともなく，成鳥がそこに来るのを認めなかった |
| ヒナについて |  |  |
| A | 19 | ヒナのいる巣を見た |
| A | 20 | ヒナの声をきいた |
| A | 21 | 巣からほとんど移動していないと思われる単立ちビナを見た |
| B | 39 | かなり移動可能と思われる巣立ちビナを見た |
| B | 40 | 家族群を見た |
| 鳥類標識調査等において捕獲した場合 |  |  |
| A | 22 | 鳥類標識調査等で腹中に卵を触れる雌成鳥を捕獲した。 |
| A | 23 | 鳥類標識調査等で顕著な抱卵斑（指標5）を持つ雌成鳥（場合によっては雄成鳥）を，繁殖期間中の異なった時期に複数回捕獲，もしくは同様の指標ちの個体を複数捕獲した。 |
| A | 24 | 鳥類標識調査等で幼綿羽が残る，もしくは全身が幼羽の状態で，第一回冬羽への換羽がま だ始まっていない個体を捕獲した。 |
| B | 41 | 鳥類標識調査等で顕著な抱卵斑（指標5）を持つ雌成鳥（場合によっては雄成鳥）を1羽の み，1回だけ捕獲した。 |
| B | 42 | 鳥類標識調査等で巣材をくわえた成鳥を捕獲した，もしくは捕獲個体の近くに明らかに巣材と思われるものがあった。 |
| B | 43 | 鳥類標識調査等で第一回冬羽へ換羽中の幼鳥を捕獲した。 |
| C | 52 | 鳥類標識調査等で総排泄腔の顕著な突出を見せる雄成鳥を捕獲した。 |

## （2）アンケート調査

アンケート調査は，現地調査の前後に観察した種や任意の地点で観察した記録などについて，観察地点（3 次メッシュあるいは緯度経度），種名，観察日，観察コード（表 1）を調査参加者から情報収集し た。また，調査参加者以外の鳥類観察者からも情報を収集することができるように，ウェブサイト内のア ンケートフォームからもデータを収集した。

また，全国鳥類繁殖分布調査に登録された情報のうち，東京の 3 次メッシュの情報のあるもの（現地調査の定点の記録およびアンケート情報），文献情報やモニタリングサイト 1000 などの別調査のデータ， バードリサーチの野鳥観察データベースに登録された記録なども収集した。

これらのデータは，事務局で識別や記入の誤りをチェックしたのちに，データベースに登録した。これ らの情報は 43,653 件あり，現地調査が実施されておらず，アンケート情報が得られたメッシュは 609 メッ シュあった（図1）。

## （3）分布図の作成

## －分布変化を示す図

現地調査とアンケート調査のデータを 1 km メッシュ（世界測地系）に集約し，もつとも観察コードの小さ い（繁殖ランクの高い）ものを採用し，分布図にした。1970 年代から実施されている調査コースは旧測地系のメッシュに基づき作成された調査コースであり，コースの一部が世界測地系のメッシュではメッシュ外になってしまうことがあった。しかし分布図作成にあたつては，そのような記録も含め（つまり旧測地系 のメッシュ番号＝世界測地系のメッシュ番号と仮定して）分布図を作成した。

1970 年代調査，1990年代調査と2010年代の調査を並べた分布図の1970年代調査の分布図は，東京都公害局（1980）のデータを用い，1990 年代調査の分布図は東京都環境保全局（1998）の情報を用いた。今回の 2010 年代調査では，多くのメッシュで新たに現地調査を実施し，情報量が過去より多い と考えられるため，過去から実際には分布は変化していないにもかかわらず，分布が拡大したようにみ えてしまっている可能性がある。そこで，1970 年代から継続して現地調査が実施されているメッシュでの記録メッシュ数および 1990 年代調査との個体数の比較を表にして示しているので，あわせて参照され たい。

## －密度分布を示す図

2010 年代に行なわれた本土部の現地調査に基づき，密度分布を示す図も作成した。2回の現地調査の成鳥個体数の最大値を使って，分布図を作成した。

東京都環境保全局（1998）東京都鳥類繁殖状況調査報告書（平成 5～9 年度）。東京都環境保全局，東京。
東京都公害局（編）（1980）東京都鳥類繁殖調査報告書（昭和 48 年～昭和 53 年）。日本野鳥の会，東京。

## 調査結果

2016年1月から2021年7月までに，合計 237 人が現地調査あるいはアンケート調査により，調査結果を報告した。現地調査は，本土および島嶼部の 1,444 メッシュで，そのうち 279 メッシュは 1970 年代 （1973－1978 年）および 1990 年代（1993－1997 年）にも現地調査が行なわれたメッシュだった。また， 2016 年から2021年にかけての43，653件のアンケート情報が得られた。その結果，159種の鳥類が記録され，このうち東京で繁殖記録のある（あるいは可能性のある）143 種（＋2 亜種）について分布図を作成した。亜種として分布図を作成したのはリュウキュウサンショウクイとオガサワラカワラヒワで，この亜種 の記録は，それぞれサンショウクイとカワラヒワの分布図にも含まれている

## 1．分布図

分布図は， 1 km メッシュで作成した。ただし，ハチクマ，チュウヒ，ツミ，ハイタカ，オオタカ，サシバ，ノ スリ，クマタカ，オオコノハズク，コノハズク，フクロウ，アオバズク，アカショウビン，ハヤブサ，チョウゲンボ ウ，サンコウチョウについては， 1 km メッシュでは写真撮影等の「人による直接的な影響」により，対象種 の生息が务かされる可能性があることから，5km メッシュで分布図を作成した。

## 分布図のみかた

## －分布変化の分布図

1970 年代調査（1973－1978 年）， 1990 年代調査（1993－1997 年），そして 2010 年代調査（2016－2021年）の繁殖ランクの分布変化を示した。島嶼部については， 2010 年代にしか調査が行なわれていない ので，2010年代の記録のみを示した。
現地調査とアンケート調査の全てのデータを用いて，

- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが，繁殖の可能性がある
- 生息を確認したが，繁殖の可能性は，何ともいえない
- D 生息を確認したが，繁殖の可能性は，おそらくない

を示した。D ランクには冬鳥や旅鳥（観察コード 61）の記録も含まれるが，これは図示しなかった。

注1）2010年代は，多くのメッシュで新たに現地調查を実施したため，分布が拡大したようにみえてしまう可能性がある。 そこで，1970 年代から継続して現地調査が実施されている 279 メッシュでの記録メッシュ数および 1990 年代調査との個体数の比較を表にして示した。対象メッシュが限定されているため，図に示されている点の数よりも少ない値になっ ている。また， 5 km メッシュで分布図を作成した種についても，このメッシュ数は， 1 km メッシュに基づく値である。

注2）分布図に示されている繁殖ランクAはスズメのように巣内ヒナの鳴き声で巣に気づくような種を除き，現地調査でそ れを確認することは困難で，アンケート情報の多寡に依存する度合いが大きい。全般に1970年代に繁殖ランク Aの記録が多い。1970年代の詳細な記録が残されていないためはっきりしないが，アンケート情報の充実により，こうした傾向が出ている可能性が考えられる。

## －密度分布を示す図

2010 年代の本土部の現地調査の結果をもとに， 2 回の調査の最大値をもとに分布図を作成した。対象種は，分布変化の図と同じとしたが，島嶼部のみに生息する種は除外した。繁殖ランクを問わず， すべての情報を利用して個体数を計算したため，山地部で繁殖し，低地部は旅鳥として通過するヒタキ類やムシクイ類のような種は，分布変化の図では点の落ちていない場所に，点が落ちていることがある。

- 20 羽以上
- 6－10 羽
：1－2 羽
－：11－19 羽
：3－5 羽
－：記録なし


| ヤマドリ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :--- | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果
父島

利島
御蔵島


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 42 | - |
| 1990年代 | 19 | 29 |
| 2010年代 | 18 | 32 |

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島

父島



御蔵島
母島

2016－2021年


| オシドリ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :--- | :--- | :--- | :--- |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数

1993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |



2016－2021年


繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島




1993－1997年 2010年代

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島


利島
御蔵島
母島



式根島

## 神津島

青ヶ島

| カルガモ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 39 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 67 | 312 |
|  | 2010年代 | 78 | 226 |
|  |  |  |  |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

新島

## 式根島

神津島

母島


| カイツブリ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数


－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果


母島


|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: | :---: |
| 1973－1978年 | 1970年代 | 0 | - |
|  | 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |  |

1993－1997年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果




|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | 0 |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010 年代 | 0 | 0 |



2016－2021年


繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


－繁殖確認

利島
御蔵島

新島

式根島

神津島


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |

993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |



1993－1997年

＊島嬹部は2010年代の調査の結果
での調査の結


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970 年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010 年代 | 0 | 0 |

993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 37 | 124 |
| 2010年代 | 75 | 303 |



繁殖の可能性あり生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島



| ヨシゴイ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 3 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 1 | 4 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

1993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島


| ミゾゴイ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

1993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果

## 大島



御蔵島
母島


式根島

神津島


利島


八丈島

| ゴイサギ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 1 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 14 | 16 |
|  | 2010年代 | 4 | 5 |


－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果




| アオサギ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| 1973－1978年 | 1970年代 | 0 | － |
|  | 1990年代 | 6 | 6 |
|  | 2010年代 | 67 | 118 |

1993－1997年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総碓認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 8 | 8 |
| 2010年代 | 25 | 43 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり生息確認通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



| コサギ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 20 | 23 |
|  | 2010年代 | 22 | 30 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970 年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010 年代 | 0 | 0 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果


母島




| クイナ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総砳認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | ， |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島




| ヒクイナ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :--- | :--- | :--- | :--- |
|  | 確認メッシュュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 0 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

1993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


父島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 1 | - |
| 1990年代 | 1 | 10 |
| 2010年代 | 2 | 22 |

繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 28 | - |
| 1990年代 | 5 | 5 |
| 2010年代 | 11 | 17 |


－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島

三宅島
父島



式根島

神津島

| ホトトギス | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |
| ホ総確認個体数 |  |  |  |
| $1973-1978$ 年 | 1970年代 | 58 | - |
|  | 1990年代 | 26 | 40 |
|  | 2010年代 | 60 | 82 |



1993－1997年


2016－2021年


－繁殖確認繁殖の可能性あり生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


－8：
御蔵島
－

：：青ヶ島


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 22 | - |
| 1990年代 | 8 | 8 |
| 2010年代 | 5 | 6 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島倛部は2010年代の調査の結果
大島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島




| アマツバメ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
| $1973-1978$ 年 | 1970年代 | 1 | - |
|  | 1990年代 | 3 | 4 |
|  | 2010年代 | 1 | 1 |

993－1997年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島

父島


利島
御蔵島
母島


－ 28
式根島

神津島

（青ヶ島

| ヒメアマツバメ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |  |
|  | 1970年代 | 0 | - |  |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 2 | 8 |  |
|  | 2010年代 | 7 | 29 |  |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果
大島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970 年代 | 10 | - |
| 1990年代 | 2 | 3 |
| 2010年代 | 2 | 3 |



2016－2021年


繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果



利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島




| ヤマシギ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ 数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
| $1973-1978$ 年 | 1970年代 | 0 | - |
|  | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



2016－2021年

（青ヶ島

| セイタカシギ | 1970年代から行なっている現地調查メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 0 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 1 | 5 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

1993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島




| タマシギ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 0 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

993－1997年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



| ウミネコ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 6 | 19 |

993－1997年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 13 | - |
| 1990年代 | 10 | 67 |
| 2010年代 | 4 | 78 |

繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島

父島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島


| アジサシ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | $\underline{\text { 2010年代 }}$ | 2 | 3 |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970 年代 | 0 | - |
| 19年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |

2016－2021年


1993－1997年

＊島嬹部は2010年代の調査の結果
代の調査の結果


| ミサゴ | 1970年代から行なっている現地調查メッシュの比較 |  |  |
| :--- | :--- | :--- | :--- |
|  | 確認メッシュュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 0 | - |
|  | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

1993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


父島



| ハチクマ | 1970年代から行なっている現地調查メッシュの比較 |  |  |  |
| :--- | :--- | :--- | :--- | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |  | 総確認個体数

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

## 新島

式根島

神津島

母島





| チュウヒ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数

993－1997年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



式根島

神津島




－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

新島

式根島

神津島

母島


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 4 | - |
| 1990年代 | 1 | 1 |
| 2010年代 | 3 | 4 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島倛部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

新島

式根島

神津島


母島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



母島


| コノハズク | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果

大島



利島

新島

式根島

神津島

御蔵島
母島


2016－2021年






|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 5 | - |
| 1990年代 | 9 | 10 |
| 2010年代 | 15 | 17 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 1 | 1 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島



母島
母島


| ブッポウソウ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
| $1973-1978$ 年 | 1970年代 | 0 | - |
|  | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |



2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 1 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 1 | 1 |


|  | 1970年代 | 1 | - |
| :--- | :--- | :--- | :--- |
| 19973－1978年 | 1901 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 1 | 1 |

1993－1997年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島




| アカゲラ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 25 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 10 | 10 |
|  | $\underline{\text { 2010年代 }}$ | 28 | 36 |



2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果



| ハヤブサ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |  | 総確認個体数

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果
大島


御蔵島



| サンショウクイ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 26 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 6 | 10 |



2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


利島
御蔵島

新島

式根島

神津島

母島


|  | 碓認メッシュ数 | 総碓認個体数 |
| :---: | :---: | :---: |
| 1970 年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010 年代 | 0 | 0 |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



2016－2021年



チゴモズ

|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990 年代 | 0 | 0 |
| 2010 年代 | 0 | 0 |



2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



| モズ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |  | 総確認個体数



2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果


利島

新島

## 式根島

神津島


母島


| 1970年代から行なっている現地調査メッシユの比較 |  |  |
| :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |

$\left\{\begin{array}{l} \\ 0\end{array}\right.$

1993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果

神津島
大島



式根島


|  |  |  |  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
| 1970年代 | 69 | - |  |  |  |  |
|  | 1990年代 | 40 | 69 |  |  |  |
| 2010年代 | 59 | 138 |  |  |  |  |



1993－1997年
－．．ะ••••


2016－2021年

繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島
母島

新島

## 式根島

神津島



－


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島



御蔵島
母島

：




|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 10 | - |
| 1990年代 | 17 | 28 |
| 2010年代 | 35 | 68 |



2016－2021年








|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990 年代 | 0 | 0 |
| 2010 年代 | 0 | 0 |



2016－2021年


繁殖の可能性あり生息確認通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島



利島
御蔵島
母島

新島

## 式根島

神津島


| イワツバメ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 35 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 45 | 327 |
|  | 2010年代 | 26 | 143 |



$$
\because:
$$


$\because$ •：
.


2016－2021年

$$
\text { : } \quad \therefore: \cdot \cdot: .
$$

 ．
$\because \because \cdot \circ \cdot 0^{\circ}$
$\because!$
－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島
母島

新島

式根島

神津島

1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較

|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 56 | - |
| 1990年代 | 25 | 98 |
| 2010年代 | 83 | 374 |




2016－2021年



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 8 | - |
| 1990年代 | 7 | 23 |
| 2010年代 | 5 | 11 |


$\because \cdot$
－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果


母島


| エゾムシクイ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 9 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 5 | 6 |

1993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

新島

式根島

神津島


八丈島

母島



| イイジマムシクイ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数



2016－2021年


繁殖の可能性あり
生息確認 通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果


| メグロ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果
大島



御蔵島
利島


母島



| ウチヤマセンニュウ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


オオヨシキリ
1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較

|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 28 | - |
| 1990年代 | 15 | 62 |
| 2010年代 | 15 | 66 |

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島




利島
御蔵島
母島

2016－2021年


| コヨシキリ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総磪認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |

993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり －生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島




| ゴジュウカラ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 13 | - |
|  | 1990年代 | 6 | 9 |
|  | 2010年代 | 9 | 28 |



2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果


式根島

神津島

| キバシリ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :--- | :--- | :--- | :--- |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数

1993－1997年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島嶼部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



式根島

神津島


| ムクドリ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数








1993－1997年
－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島

父島

利島
御蔵島
母島

新島

式根島
八丈島

神津島

| コムクドリ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |  |
| :--- | :--- | :--- | :--- | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |  | 総確認個体数

993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970 年代 | 10 | - |
| 1990年代 | 1 | 1 |
| 2010 年代 | 6 | 7 |



1993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


利島
御蔵島
母島

新島

式根島
＂神津島



| ラツグミ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総磪認個体数 |
|  | 1970年代 | 16 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 6 | 8 |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島嵮部は2010年代の調査の結果




母島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 49 | - |
| 1990年代 | 42 | 99 |
| 2010年代 | 49 | 104 |



1993－1997年



$!$.
2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


利島御蔵島

新島

式根島

神津島

母島



| コマドリ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 15 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 7 | 16 |
|  | 2010年代 | 5 | 6 |



2016－2021年
！！．．





インヒヨドリ
1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較

|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 9 | 12 |

1993－1997年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島
$\bullet$.

八丈島

式根島

## 神津島

父島


母島


| サメビタキ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総磪認個体数 |
|  | 1970年代 | 1 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 0 | 0 |
|  | 2010年代 | 1 | 1 |

－

1993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



| コサメビタキ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  | 総確認個体数



繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

新島

式根島

神津島


母島


| キビタキ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 45 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 14 | 28 |
|  | 2010年代 | 94 | 334 |



1993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


|  |  |  |  |
| :--- | :--- | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |  |
|  | 1970年代 | 38 | - |
| 1990年代 | 22 | 31 |  |
|  | 2010年代 | 62 | 166 |


－繁殖確認－
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嶼部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

母島

## 新島

2016－2021年




| ハクセキレイ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 7 | - |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 72 | 130 |
|  | 2010年代 | 98 | 160 |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島
母島

新島

## 式根島




| ビンズイ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ 数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
| $1973-1978$ 年 | 1970年代 | 10 | - |
|  | 1990年代 | 4 | 7 |
|  | 2010年代 | 5 | 11 |


－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970 年代 | 0 | - |
| 19年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 0 | 0 |

993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



式根島

神津島


| コイカル | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |  | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | - |  |  |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 1 | 2 |  |  |
|  | 2010年代 | 0 | 0 |  |  |

993－1997年


2016－2021年


繁殖の可能性あり
－生息確認生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 63 | - |
| 1990年代 | 39 | 67 |
| 2010年代 | 58 | 143 |



1993－1997年


2016－2021年

－繁殖碓認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島崸部は2010年代の調査の結果


利島
御蔵島

新島

式根島

神津島

母島



|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 2 | 3 |

繁殖の可能性あり
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



神津島

| コジュケイ | 1970年代から行なつている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 141 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 32 | 44 |
|  | 2010年代 | 43 | 56 |



－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嶼部は2010年代の調査の結果

父島

利島
御蔵島
母島

新島

## 式根島


八丈島

## 神津島

|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 1 | 2 |
| 2010 年代 | 0 | 0 |


－繁殖確認
繁殖の可能性あり
生息確認 －通過／採食／渡り
＊島嬹部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島



式根島

神津島

| カワラバト（ドバト） | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  | 確認メッシュ数 |  |  |
| 総確認個体数 |  |  |  |
|  | 1970年代 | 103 | - |
|  | 1990年代 | 112 | 1662 |
|  | 2010年代 | 157 | 1822 |

－繁殖確認－繁殖の可能性あり 生息確認 通過／採食／渡り
＊島㜥部は2010年代の調査の結果
大島


利島
御蔵島
母島

## 新島

式根島

神津島


| ガビチョウ | 1970年代から行なっている現地調査メッシュの比較 |  |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
|  | 1970年代 | 0 | － |
| 1973－1978年 | 1990年代 | 6 | 8 |
|  | 2010年代 | 98 | 289 |

1993－1997年


2016－2021年


|  | 確認メッシュ数 | 総確認個体数 |
| :--- | :---: | :---: |
| 1970年代 | 0 | - |
| 1990年代 | 0 | 0 |
| 2010年代 | 4 | 11 |



2016－2021年

－繁殖確認
繁殖の可能性あり
－生息確認 －通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果


式根島

神津島



993－1997年


2016－2021年

－繁殖確認－繁殖の可能性あり－生息確認－通過／採食／渡り
＊島犋部は2010年代の調査の結果
大島


三宅島
父島




















## 2．東京の鳥の現状

## （1）地域による種数の違い

東京は島嶼部から都市，山地と地域により環境が異なる。こうした地域による確認種数を示した（図 1）。現地調査を行なったメッシュの 2 回の調査で確認された種のうち，分布図を示した 143 種を対象に種数 を算出したものである。最も確認種数が少なかったメッシュでは 2 種が記録され，それらはいずれも島嶼部で，種数が少ないメッシュは島嶼部に集中していた。島嶼部の中では，アカコッコ，イイジマムシクイな ど固有種の生息している八丈島，三宅島，利島では比較的種数が多かった。もつとも多かったのは 40種で本土部の山地部の記録であり，種数の多いメッシュは山地部と河川沿いに集中していた。

一般に大きな島では生息鳥類の種数が多く，小さな島は少ないといわれており，東京都の島嶼部の島ごとの種数と面積の関係を見ると，面積の大きい大島，八丈島，三宅島の生息種数は多かったが，そ れより小さい島では明確な傾向はなかった（図 2）。小さくても固有種の多い利島のような島もあり，また本土からの距離も種数に影響を及ぼすため，明確な傾向がないのかもしれない。


図 1．現地調査で確認された種数の分布


図2．島面積と確認種数の関係

## （2）本土，伊豆諸島，小笠原諸島の優占種

東京の鳥の優占種を分布の広さと，数から示した。分布の広さは各種の記録メッシュ数の上位種を集計した。分布でみた最優占種は本土ではヒヨドリ，ハシブトガラス，シジュウカラ，島嶼部はウグイスとメジ ロだった。全国では，ウグイスが最上位種だったが，東京の本土部では，15 位と低く，全国では上位に入らない，スズメ，ムクドリ，カワラバト（ドバト）といった，都市部に多い種が上位に入るのが特徴だった。

個体数の多い種は，島嶼部は分布と同様にウグイスとメジロが上位だったが，本土部はスズメやムクド リが多かった。全国でもスズメは上位に来たが，ムクドリの多さは東京の特徴といえた。全国的な傾向とし ては，ムクドリは農地帯では減少傾向にあり都市部では増加傾向にあったので，都市部の多い東京で は上位に来たのだと考えられた。

表 1．各地域のメッシュ数の多い種，総個体数の多い種上位 10 種

| 本土（ 1,138 ） |  |
| :---: | :---: |
| 種名 | メッシュ数 |
| ヒヨドリ | 1，063 |
| ハシブトガラス | 1，043 |
| シジュウカラ | 1，041 |
| スズメ | 972 |
| キジバト | 957 |
| ムクドリ | 912 |
| ツバメ | 817 |
| メジロ | 786 |
| カワラバト（ドバト） | 713 |
| カワラヒワ | 618 |
| 種名 | 個体数 |
| スズメ | 17，990 |
| ムクドリ | 14，707 |
| カワラバト（ドバト） | 8，055 |
| ヒヨドリ | 7，809 |
| シジュウカラ | 5，337 |
| ハシブトガラス | 5，145 |
| キジバト | 4，063 |
| ツバメ | 3，301 |
| メジロ | 2，908 |
| カワウ | 1，769 |


| 伊豆諸島（267） |  | 小笠原諸島（39） |  |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
| 種名 | メッシュ数 | 種名 | メッシュ数 |
| ウグイス | 241 | メジロ | 39 |
| メジロ | 221 | ウグイス | 39 |
| ハシブトガラス | 177 | ヒヨドリ | 34 |
| ヒヨドリ | 175 | トラツグミ | 26 |
| ホオジロ | 165 | メグロ | 21 |
| ホトトギス | 154 | イソヒヨドリ | 18 |
| キジバト | 139 | ノスリ | 8 |
| カラスバト | 122 | カラスバト | 5 |
| シジュウカラ | 117 | カワラヒワ | 1 |
| ヤマガラ | 106 | カツオドリ | 1 |
| 種名 | 個休数 | 種名 | 休数 |
| ウグイス | 2，229 | メジロ | 610 |
| メジロ | 2，192 | ウグイス | 519 |
| ヒヨドリ | 1，868 | メグロ | 375 |
| イイジマムシクイ | 1，500 | ヒヨドリ | 159 |
| ホオジロ | 776 | トラツグミ | 64 |
| ハシブトガラス | 649 | イソヒヨドリ | 44 |
| コマドリ | 597 | カラスバト | 12 |
| スズメ | 564 | ノスリ | 11 |
| キジバト | 563 | カワラヒワ | 2 |
| アカコッコ | 546 | カツオドリ | 2 |

## 3．増減種とその共通点

## （1）1990年代からの増減

東京都鳥類繁殖分布調査では，279 メッシュで 1970 年代から現地調査が行なわれてきた。ただ， 1970 年代のデータは現地調査とアンケートを合わせた情報しかないため，現地調査だけでの比較が可能な1990年代と2010年代のデータを記録メッシュと総個体数の増減について比較した。
－記録メッシュ数の増減：（2010 年代調査の記録地点数－1990 年代調査の記録地点数）
$\div 1990$ 年代調査の記録地点数 $\times 100$
－総個体数の増減：2010年代調査の総個体数－1990 年代調査の総個体数

記録メッシュ数の増加率の高い種は，ガビチョウ，ホンセイインコといった外来鳥，アオサギダイサギと いった魚食性の鳥，キビタキ，アオバトといった樹林性の鳥といった共通点があった。この傾向は，全国的な傾向とも一致していた。個体数でも同様の傾向があつたが，ムクドリの増加数がもつとも高い点が異 なっていた。

減少率の高い種は，メッシュ数ではイワツバメ，セグロセキレイ，オナガ，ヒバリ，ホオジロの減少率が高く，個体数ではスズメやツバメが上位となった。カルガモはメッシュ数ではやや分布が広がっている傾向にあったが，個体数では減少しており，公園の小さな池などにも生息するようになった反面，数は減つ ているのかもしれない。

表 2．1990年代から増減した種の上位 10 種． 279 メッシュの現地調査の記録基づく
1）記録メッシュ数の増減

|  | 1990年代 | 2010年代 | 増減（\％） |
| :--- | ---: | ---: | ---: |
| ガビチョウ | 6 | 98 | 1,533 |
| アオサギ | 6 | 67 | 1,017 |
| キビタキ | 14 | 94 | 571 |
| アオバト | 11 | 57 | 418 |
| ホンセイインコ | 15 | 67 | 347 |
| アオゲラ | 21 | 87 | 314 |
| エナガ | 24 | 83 | 246 |
| ダイサギ | 8 | 25 | 213 |
| オオルリ | 21 | 62 | 195 |
| アカゲラ | 10 | 28 | 180 |


|  | 1990年代 | 2010年代 増減（\％） |  |
| :--- | ---: | ---: | ---: |
| イワツバメ | 45 | 26 | -42 |
| セグロセキレイ | 32 | 19 | -41 |
| オナガ | 123 | 83 | -33 |
| ヒバリ | 25 | 17 | -32 |
| ホオジロ | 80 | 60 | -25 |

2）記録個体数の増減

|  | 1990年代 | 2010 年代 | 増減（羽） |
| :--- | ---: | ---: | ---: |
|  | 1,981 | 3,125 | 1,144 |
| ムクドリ | 659 | 1,153 | 494 |
| シジュウカラ | 127 | 446 | 319 |
| ヒガラ | 28 | 334 | 306 |
| キビタキ | 340 | 628 | 288 |
| メジロ | 8 | 289 | 281 |
| ガビチョウ | 98 | 374 | 276 |
| エナガ | 1,592 | 1,827 | 235 |
| ヒヨドリ | 105 | 286 | 181 |
| ヤマガラ | 250 | 430 | 180 |
| ウグイス |  |  |  |


|  | 1990年代 | 2010年代 | 増減（羽） |
| :--- | ---: | ---: | ---: |
| スズメ | 6,133 | 4,529 | $-1,604$ |
| ツバメ | 1,030 | 815 | -215 |
| イワツバメ | 327 | 143 | -184 |
| オナガ | 448 | 303 | -145 |
| カルガモ | 312 | 226 | -86 |
| ホオジロ | 232 | 172 | -60 |

## （2） 1970 年代からの各種鳥類の変化の特徴

前述したように， 1970 年代のデータは現地調査データとアンケートデータをあわせたデー夕しか残っ ていないため，正確な比較はできないが，現地調査が行なわれたメッシュにおいて， 10 回以上の記録 のある 84 種を対象に 1970 年代からの記録メッシュ数の増減について

増加：1970年代から増加が続く種
頭打ち：1990年代にかけて増加し，その後，多いままの種
V 字回復：1970年代から90年代にかけて減少したものの，その後 2010 年代にかけて増加した種変化なし：明確な変化のない種

山型： 1970 年代から 90 年代にかけて増加したものの，その後減少した種
L 字： 1970 年代から 90 年代にかけて減少し，その後少ないままの種
減少：減少し続けている種
に各種を区分し，生息環境別にまとめた。

すると，V 字回復した種が最も多く，増加がそれに続き，頭打ち を含めた増加傾向にある種が $59 \%$ を占めた（図 3）。この増加種 の多くが樹林性の種で，1990 年代からの増減とも一致していた。 ヤマガラ，メジロ，コゲラなど疎林 でも生息する種は 3 期を通して増加しており，キビタキやサンコウチ ョウなどの夏鳥や，アオバトやヤマ


図 3．東京の繁殖鳥類の1970年代からの増減の傾向 ドリ，大型キツツキなどしつかりした森林に生息する留鳥などはV字回復していた。

また，魚食性の種も増加傾向にあること，草地／湿地性，裸地性の種は減少傾向にあるものが多いこ とも1990年代からの変化と一致しており，こうした傾向は全国鳥類繁殖分布調査の結果（鳥類繫殖分布調査会 2020 ）とほぼ一致していた。ただし，V 字回復種が多い点が大きな違いだった。東京は，首都圏だけに森林面積も小さく，開発圧が高いのが特徴である。1970年代から1990年代にかけて丘陵地 の林が宅地開発などで消失するなどして，その影響もうけて樹林性の鳥の減少度合いが他地域よりも大 きかったと考えられる。また，全国的に 2010 年代にかけて，山地ですすんだ森林の成熟だけでなく，平地では他地域よりも多く整備されている公園緑地の樹木や街路樹などの成長もあって，1990 年代から 2010 年代にかけての樹林性の鳥の増加も大きかったのかもしれない。こうした東京の特異性が「V 字回復種が多い」結果につながったのではないかと思われる。

## （3）1970年代からの鳥類相の変化

次に，同じデータを使って鳥類相の変化についてまとめた。1970年代， 1990 年代， 2010 年代の各メ ッシュで確認された鳥類を「クラスター分析」により，鳥の出現状況の似た場所をグループ化した。分布 の限られている種がグループ化に強く影響してしまうので，そうした影響を除くために，先の解析よりもも う少し対象種を絞り， 50 回以上の記録のある種で，かつ外来鳥を除いた 45 種の生息情報を基に解析し た。すると， 7 つの鳥類相に区分することができた。それらの鳥類相の特性と分布を図 4 に示した。

1970 年代

$\square$ 鳥類相1
スズメ，キジバト，ヒヨドリ，ハシブトガラスなど普通種以外の種がほとんどいない
$\square$ 鳥類相 2
鳥類相 1 に似るが，スズメ以外の記録率は低く，
水鳥類の記録率がやや高い
$\square$ 鳥類相 3
鳥類相 1 に加え，ホオジロ，モズ，ヒバリなどが いる
$\square$ 鳥類相4
鳥類相 1 に加え，メジロ，ハクセキレイ，コゲラ などがいる
$\square$ 鳥類相 5
鳥類相 4 に加え，ウグイス，アオゲラ，ヤマガラ などがいる
$\square$ 鳥類相 6
ヤマガラ，キビタキ，アオバトなどが樹林性の鳥 が優占する
$\square$ 鳥類相7
鳥類相6と似ているが，開けた場所の鳥がほとんど記録されない

図 4．1970年代から2010年代にかけての鳥類相の変化。それぞれの○が 1970 年代から現地調査が続けられた 1 km メッシュを示す

1970 年代は都心部から郊外にかけて，生息種の少ない場所（鳥類相1：黄色，鳥類相2：赤）が広が っていて，郊外から山地帯にかけて，ホオジロやヒバリ，モズなど草地性の鳥がみられるようになり（鳥類相 3：オレンジ），山地部の山の鳥類相（6，7：緑系）に変わっていっていたのが，1990年代になると，郊外部ではメジロやコゲラなど疎林にも生息できる樹林性の鳥がみられるようになり（鳥類相4：青），都心部では，生息種が減った場所（黄 $\rightarrow$ 赤）も増えた。そして， 2010 年代は，メジロやコゲラがみられる場所 はさらに都心部へと広がり，郊外では，より樹林性の強いアオゲラやヤマガラなどがみられる場所（鳥類相5：水色）が広がってきたことがわかった。

以上のように，東京では都心部から郊外にかけての平地部で大きな変化があり，1970年代から1990年代にかけて空き地や農地が住宅地にかわったり，農作物が麦から野菜にかわったりすることで，草地

性，裸地性の種が減少したのに対して，緑地や街路樹の木が生長することで，郊外から徐々に樹林性 の鳥が分布を拡大してきたのだと思われる。そして，山地帯では鳥類相レベルの大きな変化はないもの の，樹林性の鳥のV 字回復が進んでいるようである。こうした傾向は全国的な傾向とも一致している。た だ，開発圧の激しい東京ではより大きな変化となっていて，前述した樹林性の鳥だけでなく，草原の鳥 でも全国ではやや減少している程度のホオジロが東京では急減していた。

## 4．特徴的な分布変化を示した種

1990 年代と 2010 年代両方で現地調査が行なわれたメッシュを対象に，分布変化および個体数の変化を図示し，その中から特徴的な変化を見せた種について，以下に示した。

## （1）分布の変化

## コサギ

全国的に分布を縮小されている鳥 で，多摩地域などでは見られなくなっ たメッシュが多くあった。反面，都心部 では，今回新たにみられるようになった メッシュが集中していた。


全国では，原因は不明だが，コサギ
は大河川では減少し，小河川では変化がないかあるいは増加する傾向があり，都心部で記録されてい る場所は公園の池などが多く，同様のことが起きているのかもしれない。

## オナガ

オナガも全国的に分布が縮小し， また，モニタリングサイト 1000 里地調査でも個体数の減少している鳥である。多摩地域では記録されなくなったメッ シュが多かったが，区部では新たに記録されるようになったメッシュが多かっ


た。都心部で増加したのは，緑地の生長が考えられるが，多摩地域での減少の原因はよくわからない。

## ハシボソガラス

従来，都心部に生息するカラスは ハシブトガラスであったが，状況が変 わりつつあり，都心辺縁部から徐々に分布を拡げており，現地調査では記録されなかったより都心部の場所でも ハシボソガラスは生息するようになっ
 ていた。

## シジュウカラ

1990 年代には都心部を除く全域に分布していたが，2010 年代には都心部 でも生息するようになり，千葉との県境部を除けば，東京都全域で記録される ようになった。樹林性の鳥で，都心部の緑地や街路樹の生長により，生息可能 な地域が広がったためと考えられる。

## ツバメ

都心部で新たに記録されたメッシュ が多かった。反面，山地では記録され なくなったメッシュが多かった。都心部 では，以前はツバメの減少が言われて いたので，その後，復活傾向にあるの かもしれない。

## ウグイス

1990 年代には記録されなかった多摩地域で新たに記録された場所が増加していた。使われていない雑木林や宅地に藪ができたことが原因と考えら れ，この分布変化に対応してか，ウグイ スに托卵するホトトギスも分布を拡大し

ていた。ただし，樹林の少ない場所ではウグイスが確認されても，ホトトギスは記録されなかった。

## メジロ

1990年代には記録されなかった多摩地域から都心にかけての地域で新た に記録された場所が増加していた。シ ジュウカラと比べ樹林性の強い種のた め，東京都の東部地域ではまだ少なか った。


（2）個体数の変化

## スズメ

全国的に個体数が減少し ており，東京でも多摩地域 では個体数が大きく減少し ていた。ただし都心部では個体数の増えているメッシ
 ュが多い。樹林性の鳥とは

異なり，街路樹や緑地の生長はあまり関係ないと思われ，原因は明らかでない。

## カワラバト（ドバト）

都心部で減少傾向にあり， それ以外の地域では増加傾向にあるメッシュが多かっ た。ごみの管理の徹底や，鳥 インフルエンザ等に伴い，給餌がされなくなったことで，


これまで多かった都心部から郊外部への分散が起きている可能性が考えられる。

## 5．レッドリストへの反映

東京都では，2021年4月にレッドリストが改定され，「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020 年版」（東京都環境局 2021）が公表された。このレッドリストの改定にあ たり，植田が委員になっていたこともあり，本調查の成果を改定のために提供した。具体的には，植田•佐藤（2019）で もまとめたように，東京都のレッドリストに選定されていない種の中で，セッカ，イワツバメ，オナガ，ホオジロの減少が顕著であることが示されたので，その状況を提供することで， セッカが絶滅危惧II類に，イワツバメ，オナガ，ホオジロが準絶滅危惧に選定された。

東京都では，レッドリストの島嶼版の改定も予定されてお り，今後も，本調査のデータが自然保護施策に活かされる
 ように働きかけていく予定である。

東京都環境局（2021）東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）。
https：／／www．kankyo．metro．tokyo．lg．jp／nature／animals＿plants／red＿data＿book／redlist2020．files／00＿zenbun＿rl2020＿3．pdf植田睦之•佐藤 望（2019）繁殖分布調査をレッドリストに活かす～東京都の事例～。バードリサーチ

ニュース 2019 年 1 月： 2 https：／／db3．bird－research．jp／news／201901－no2／

## 6．これまでに公開された成果およびデータの利用

ここまでにまとめたこと以外にも，いろいろなことがわかってきている。そうした成果はニュースレターや雑誌記事としてまとめられている。それらは以下のホームページより，全国鳥類繁殖分布調査の成果と合わせ，閲覧あるいはリストを見ることができる。
https：／／www．bird－atlas．jp／pub．html


図 4．これまでに発行された全国鳥類繁殖分布調査の年次報告

これから進められる詳細な解析により，さらに多くのことが明らかになると思われ，それらの成果につ いても逐次，上記ホームページに掲載していく予定である。

また，すでに東京都のレッドリストの改定に本調査のデータが使われたが，今後も様々な保全施策に提供していき，それらの成果もホームページで公開していく予定である。

保全や研究，普及啓発等に本データを利用することができる。利用したい場合は 5 km メッシュのデー夕については，公開されており，だれでもダウンロードすることができる。また，現地調査のデータなどよ り詳細なデータを利用したい場合は，申請することで利用することができるので，以下のデータ公開論文をご覧いただきたい。

植田睦之•佐藤望•葉山政治（2021）東京都鳥類繁殖分布調査で収集された 5 km メッシュの鳥類の繁殖分布のデータ．Bird Research 17：R11－R14．https：／／doi．org／10．11211／birdresearch．17．R11

## 調査協力者

調査にあたっては，237 人の方の協力を得た。これらの参加者の協力なしには調查は実施することは できなかった。以下にお名前を列記して，お礼に代えさせていただく（敬称略，漢字コード順）

マリアノクルス，阿河眞人，阿賀千夏，阿部仁美，安藤温子，安藤都，伊藤晴康，井ノ口博司，井守美穂，井上遠，井上喜重郎，井上太志，井灘志げ子，磯貝和秀，稲垣章子，羽村俊夫，永井壯茂，永井洸睴，園村茂夫，岡山嘉宏，岡田浩郎，下田昭，加藤ななえ，加藤岸男，加藤晴弘，加納缡奈，河辺典子，関口佳子，岸田佳乃，岸野聡，岩崎みゆき，岩崎奈渚，岩代綾太，岩本愛夢，亀田ひとみ，菊田清子，吉邨隆資，久保賢一，宮脇悠生，牛根奈々，橋本和司，金子凱彦，金子博子，栗林菊夫，栗林和子，古家のぞみ，古口大雅，古山隆，古川セツ，古川靖晃，古沢紀，後藤裕子，御手洗望，工藤愛加，江原伸弥，江上実花，荒井悦子，荒川洋一，高橋嘉明，高橋新一，高橋遼，高倉博史，高田馨里，高田陽，高木憲太郎，佐々嘉子，佐々木泪，佐竹洋，佐藤哲郎，佐藤道子，佐藤道代，佐藤望，佐伯彰光，坂部和久，笹倉千江花，山口千佳，山際康介，山崎敏子，山崎法子，山崎優佑，山本裕，山㠃久美子，山㠃法子，山﨑優佑，山
智子，諸藤聡子，小河内麻衣，小海涼子，小見山史穗，小杉美樹，小川綾，小川圭太，小川潔，小島康弘，小林忠人，松永聡美，松原始，松村茂生，松沢友紀，松本晶子，松本祥子，沼里和幸，上沖正欣，上元淳子，上田恵介，上野尚博，植村慎吾，植田睦之，新井実保子，森口紗千子，森田清次，森由香，神山和夫，水村春香，水村彰志，成末雅恵，西準遥海，西原覀理沙，西森菜々子，西川光一，西村眞一，西澤彩香，青木秀武，斉藤けい子，石川雄大，石田健，千村章彦，千葉勇人，千葉縣子，川沢祥三，川内桂子，川内博，浅原熙，前田佳子，前迫大也，速水良一，村田一刀，村尾雅宏，太田晶子，大久保香苗，大出水幹男，大森茂男，大石，大塚真由，大塚豊，大庭弘毅，大島遥香，大島理惠，大野紘佑，谷田部佑，谷日菜子，丹羽敬子，丹羽康勝，池田志穂，竹重志織，竹内江利子，竹内邦彦，中野晃生，仲真晶子，長谷川博之，塚島栄示，塚島律子，鶴谷暢子，田恵人，田畑伊織，渡辺仁，渡辺誠，渡辺直美，渡邊宏之，土屋若葉，奴賀俊光，島村香，嶋田昌行，東有子，東良一，藤巻啓二，藤原郁久，藤江直行，藤田薫，堂岸綾子，南波春菜，如澤昌子，萩原賢一，白川恵，粕谷和夫，八次雄一朗，反町健太，板谷浩男，飯島大智，桶口香穂，浜地歩，浜野建男，浜野知恵子，武原仁美，伏見直将，福本健，平井正子，平岡考，平泉秀樹，芳賀敏博，望月英夫，北村亘，牧野田節子，堀内和啓，名執修二，茂木大樹，門口一雄，野口真穈子，野村出，野村由紀子，矢内厚子，矢本賢，柳原將男，葉山雅広，葉山政治，藍沢司，李剛，林絵梨花，林貢平，鈴村偑汰，鈴木遼太郎，廣田行雄，澤田純平，澤村信之，演優衣，齋藤統，齎藤武馬 237 名

東京都鳥類繁殖分布調查報告 2016－2021
2021年12月4日発行

本文執筆：植田睦之•佐藤 望

表紙（シンボルマーク）：重原美智子

発行：特定非営利法人 バードリサーチ
〒183－0034 東京都府中市住吉町 1－29－9

